

移住希望者に弟子屈生活をPR

なまらいいっしょ北海道フェア



本町のブースには真剣に移住を考えている方も

なまらいいっしょ北海道フェア(北海道商工会連合会主催)が1月24・25の両日、東京都で行われ、本町も参加しました。首都圏から道内への移住希望者に情報提供を行うイベントで、本町のほか7町が参加。移住の販売などを行いました。

本町のブースでは、町の移住政策担当職員2人が対応。2日間で約30組が相談に訪れました。相談内容は冬季の除雪やインターネットの接続環境、子育て、雇用などについてが多く、写真などを用いながら相談に応じました。

相談者の多くは30〜40代の子育て世代で、来町経験のある方も多くいらつしやいました。中には、具体的に移住を検討している方もいて、手応えが感じられました。

町では今後も、首都圏や関西で行われる移住説明会に参加して移住相談や情報提供を行うとともに、移住実現へのサポートも行っていきます。

マチの将来像を描いて

町の若手職員による人口問題検討会



現役大学生も参加した第6回検討会

町の若手職員を中心とした人口問題検討会の第4・5・6回目が、2月6日、13日、18日にそれぞれ行われました。「人口ビジョン」「弟子屈町版総合戦略」の策定を目指して昨年12月に発足した同検討会。第4回検討会では、2グループに分かれ、将来のマチのあるべき姿について話し合い、長期ビジョン案を決定しました。

第5回検討会では、前回決めた長期ビジョン達成に必要なものの不足しているものについて、グループごとに話し合いました。

第6回検討会では、将来のマチのあるべき姿と現状とのギャップを洗い出し、長期ビジョン達成のための具体的な方策を考えました。また、この回は、北星学園大学からのインターンシップ生(下段の記事参照)も検討会に参加し、意見を述べました。検討会は、今後も月3回ペースで開催予定です。



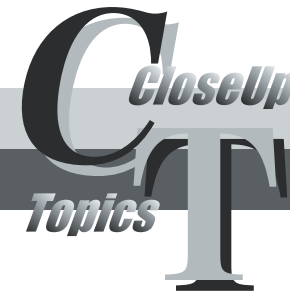
弟子屈は将来どうあるべきかをグループごとに検討

町の話



町の話

町の話



町の話

町に政策を提案

札幌の大学生が役場でインターンシップ



徳永町長にインタビューする学生たち

北星学園大学(札幌市)の学生3人が2月13日から18日にかけて、町に政策提案などを行うインターンシップ(職業体験)を行いました。

来町したのは、いずれも経済学部経営情報学科2年の千葉智明さん、奥村亜美さん、野村峻介さん。NPO法人ドットジエイピーが提供するインターンシッププログラムを利用して訪れました。摩周湖など貴重な自然環境を中心とした観光資源を持ちながら、観光客の減少に直面している本町において、新たな視点での政策や振興策を提案することが目的です。

3人は徳永町長や小林教育長、役場の各課の課長にインタビューし、町の政策や施策を学んだほか、観光施設などを視察。観光客にもインタビューを行うなど、さまざまな観点から弟子屈の今後を探りました。

来町初日 吉備津副町長と懇談

建設業への理解深めて

小・中学生が現場見学



工事の様子に見入る生徒

弟子屈小学校阿部典子校長(5年生が1月30日、下鎗別橋下流で釧路川改修工事の現場見学を行いました。同工事を手掛ける辻谷・中山・新太平洋経常建設共同企業体が、川の大切さや工事の内容、建設の仕事に理解を深めてほしいと社会貢献活動として行っているもので今年で3回目。児童は工事の概要について説明を受けた後、測量や油圧式ショベルカーの操作などを体験しました。

2月7日には、弟子屈中学校(坂東薫校長)の生徒が、標茶町の国道391号、五十石北改良工事の現場見学を行いました。同工事を手掛ける東星波部・田中・草野作工経常建設共同企業体が、土木工事への理解を深め、建設業に関心を持つてほしいと社会貢献活動として行ったもの。生徒は工事の概要について説明を受けた後、重機で行われる作業などを間近で見学。測量機器の体験や、役場建設課の女性技師からの講話も行われました。

オペレーターとともにショベルカーを操作する児童